

日本とポーランドを 結んだ友情の絆





1999年8月

ポーランドのジェチ・プオツク少年少女合唱団
来日



合唱団はヘンリク・サドキスさんの
メッセージを携えてきました。

日本の皆さんありがとう。

- ▶ 「20世紀の初め、孤児が日本政府によって救われました。
- ▶ シベリアにいたポーランドの子供たちは劣悪な条件にありました。
- ▶ その後、祖国に送り届けてくれました。親切にしてくれたこと忘れません。

20世紀初めの孤児救出は
どんな出来事だったのでしょうか？

20世紀の初めごろの 日本とポーランドの状況



国は分割されて国自体が消滅

知られざる親日国シリーズ
日本とポーランド 深い絆



ポーランド

1795～1918年 帝政ロシアの支配下にあった

- ▶ ロシア領になった地域で自分の国を取り戻そうと立ち上がった志士たちやその家族がシベリアに流刑された。

1914年、第一次世界大戦勃発

知られざる親日国シリーズ
日本とポーランド 深い絆



多くのポーランド人がシベリアに送られる

- ▶ シベリアへ流れ込んでいった人たちは、15万人から20万人に膨れ上がりました。



- ▶ 1917年、ロシア革命、さらに内戦でした。この戦火の中で、シベリアのポーランド人たちは凄惨な生き地獄に追い込まれていったのです。

知られざる親日国シリーズ
日本とポーランド 深い絆



- ▶ 多くの人々がシベリアの荒地を彷徨い、餓死、病死、凍死していったのです。

せめて子どもたちだけでも助けて！

知られざる親日国シリーズ
日本とポーランド 深い絆



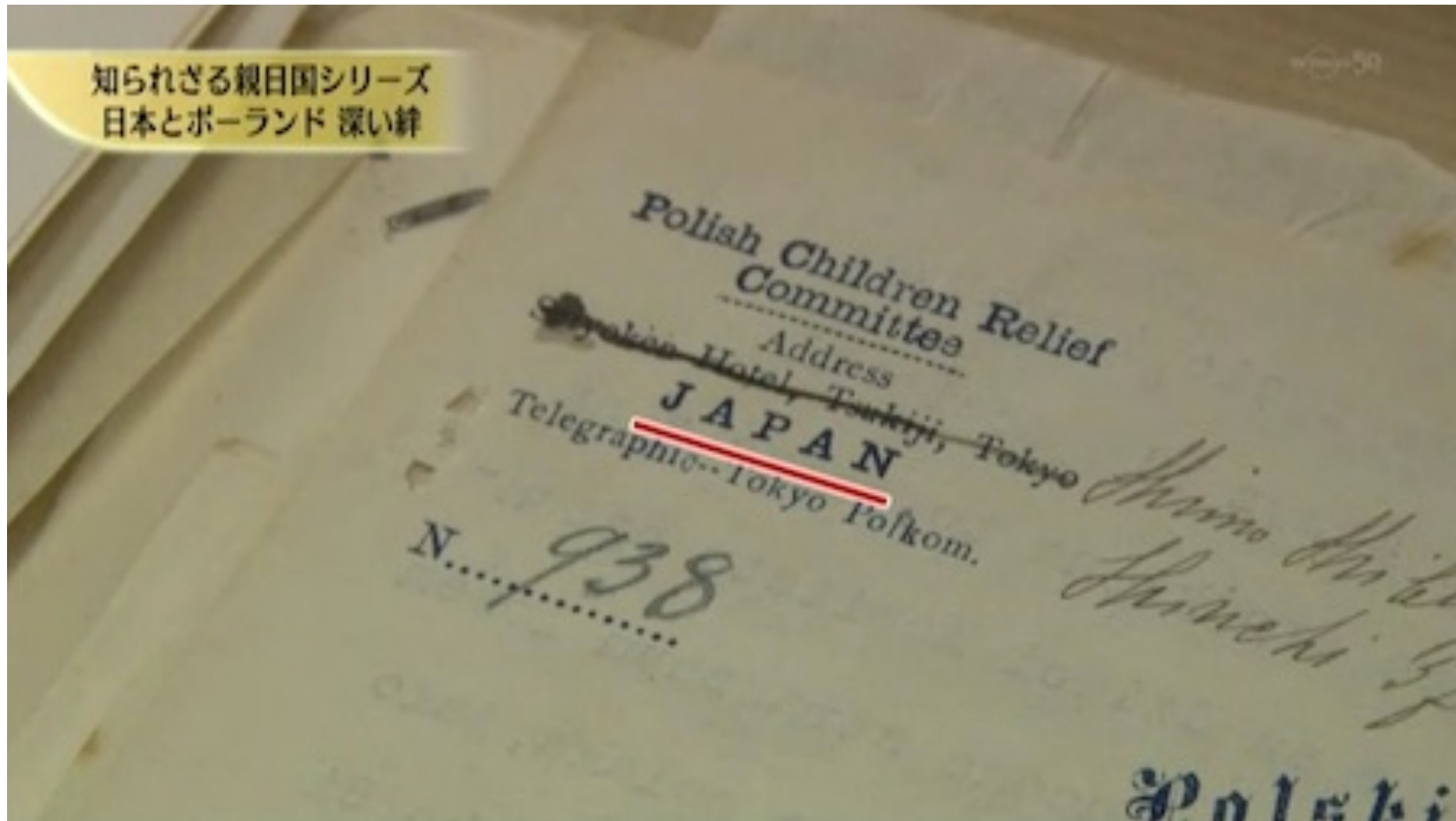
- ▶ ウラジオストク在住のポーランド人たちが、孤児たちを救わねばと「ポーランド救済委員会」を設立したのです。

知られざる親日国シリーズ
日本とポーランド 深い絆

ポーランドの救命嘆願書

- ▶ 会長のアンナ・ビルケウイッチさんは全世界にシベリアのポーランド孤児の悲惨な状況を訴えて救済を求めました。

知られざる親日国シリーズ
日本とポーランド 深い絆



- ▶ 最後の望み！ として彼らがすがったのがまだ国交もない日本でした。1920年6月の事です。

17日後にシベリアのポーランド人孤児救済が決定！

知られざる親日国シリーズ
日本とポーランド 深い絆

765人の孤児 日本へ

- ▶ 1920年7月には孤児たちの第一陣、翌年にかけて375名が東京に到着。1922年の第二陣では390名の孤児たちが大阪へと合計で765人の孤児たちが日本へ来たのです。

知られざる親日国シリーズ
日本とポーランド 深い絆



ポーランド孤児

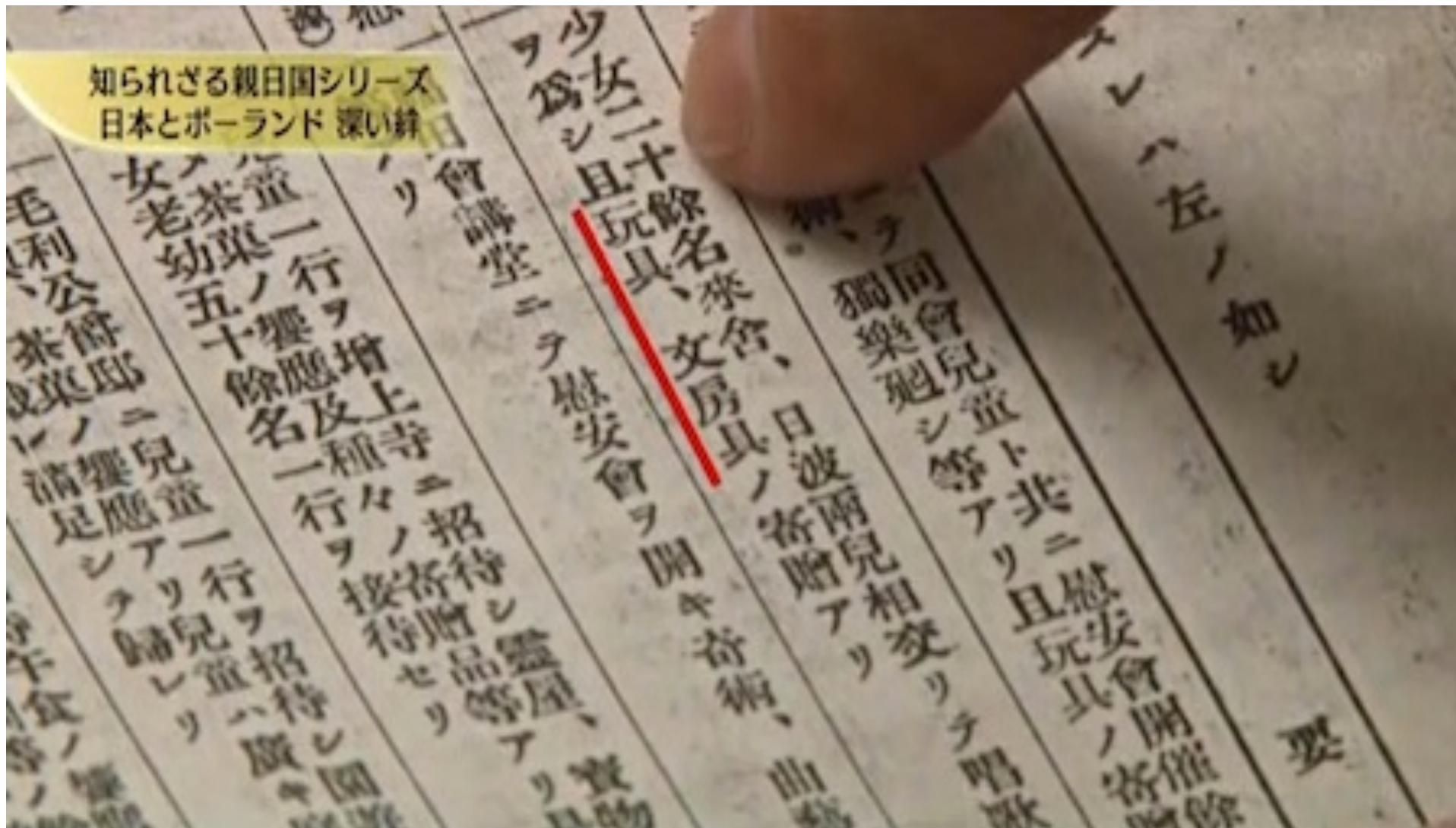
横浜 大阪に2年間滞在

- ▶ シベリアの厳しい環境の中で死の淵を彷徨っていた孤児たちは、体は弱っており、風邪、百日咳、腸チフスなどの病気に罹っていた。

- ▶ 昼夜の別なく、子どもたちの看護に当たっていました。
- ▶ 「この子らは、両親も兄弟も居ないので。私は決めたのです。この子たちの姉になると」
- ▶ 休まず、看護を続けていたため、腸チブスに感染して、23歳という若さで殉職しました。

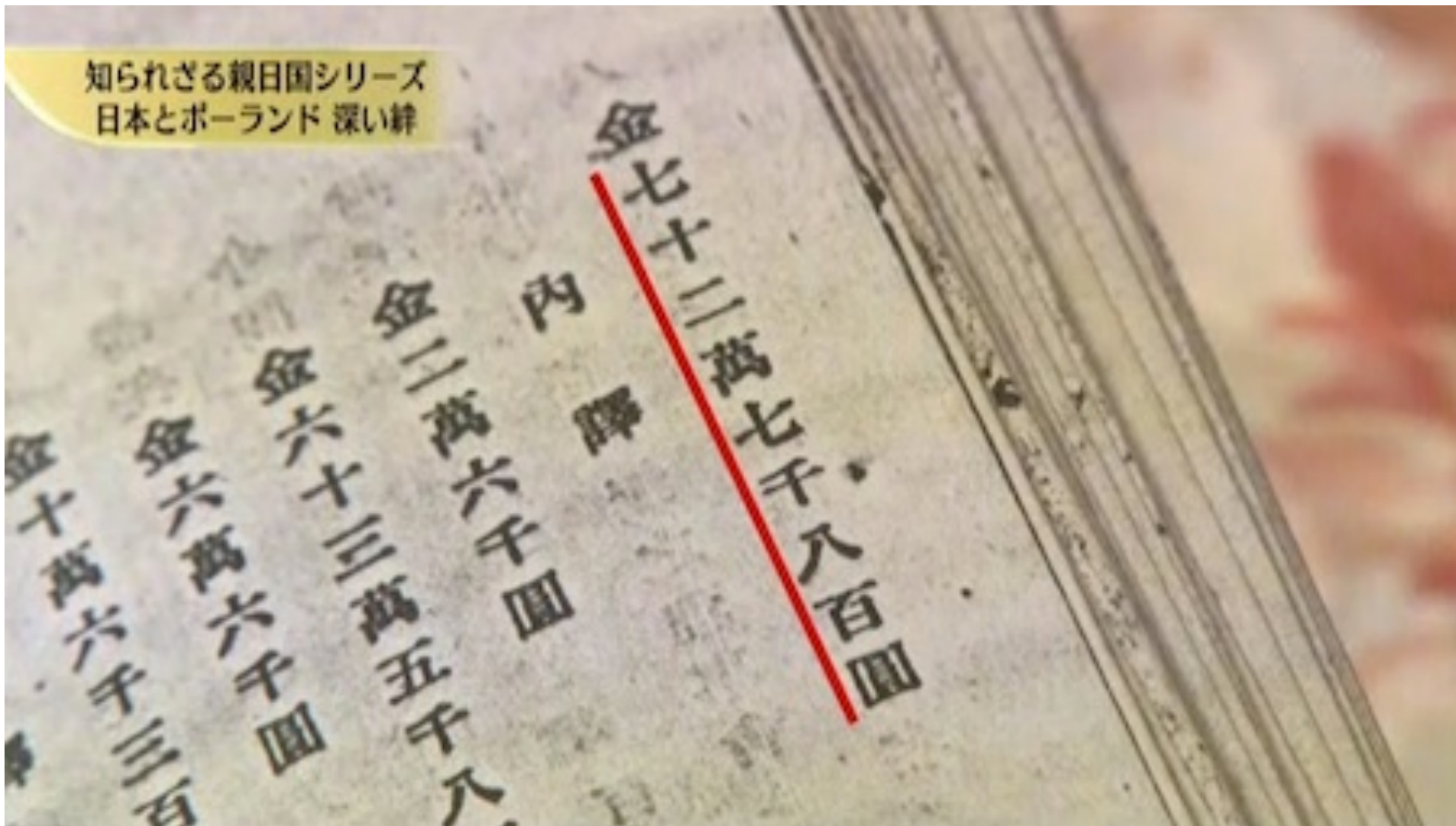


知られざる親日国シリーズ
日本とポーランド 深い絆



- ▶ 慰問品や寄贈品が次々に寄せられ、慰安会も何度も行われました。

知られざる親日国シリーズ
日本とポーランド 深い絆



- ▶ 72万7800円、今の金額だと5億円の寄付金も集まりました。

知られざる親日国シリーズ
日本とポーランド 深い絆



- ▶ 献身的な看護や暖かいもてなしの甲斐があって、来日当初は飢えて体力も衰えていた孤児たちは、みるみる元気を取り戻しました。



- ▶ 彼らは、口々に「アリガトウ」や船のデッキから「君が代」を斉唱して、感謝の気持ちを表しました。



- ▶ シベリア孤児たちは、帰国後も「日本に恩返しを」との意志は子供や孫の代まで引き継がれました。

日本とポーランドを結んだ友情の絆

- ▶ 「アリの町」のゼノ神父
1930年、宣教の為に来日
- ▶ 1945年8月9日に落とされた原子爆弾によって被爆。
- ▶ 廃墟と化した長崎の街で、同じように打ちのめされた人々を毎日見舞いました。





▶ 「希望を失わず
に頑張って
生きましよう」

- ▶ ゼノ修道士の活動は、日本の景気が良くなる1960年代まで続けられました。
- ▶ ゼノ修道士は、1982年4月に91歳でその生涯を終えましたが、本や舞台などで業績が語り継がれています。



日本とポーランドを結んだ友情の絆

▶ イエジ・ストシャウコフスキさん

17歳の時、ポーランドと日本の親睦を深めるための組織「極東青年会」を作って会長になりました。

▶ 1939年、32歳の時レジスタンス運動

ポーランドはナチス・ドイツに侵略されるが、抵抗するため、「イエジキ部隊」として、レジスタンス運動に参加。



イエジ・ストシャウコフスキ
(左)

と握手する林敬三日赤社長
(右) (当時)

日本とポーランドを結んだ友情の絆

- ▶ 「かつてのシベリア孤児として61年ぶりに皆様とお会い出来て大変うれしく思います。私の仲間たちも、ここで同じように感謝の気持ちを述べたかったに違いありません。ですから仲間たちを代表してお礼の言葉を述べさせていただきます。」
- ▶ 1983年 61年ぶりの来日
イエジ・ストシャウコフスキ氏は、1983年に日本赤十字社大阪支部を訪れました。



イエジ・ストシャウコフスキ
(左)

と握手する林敬三日赤社長
(右) (当時)

日本とポーランドを結んだ友情の絆

▶ レフ・ワレサ

1943年生まれ、「本を読んだことがない」というぐらい学力が無く、造船所で電気工として働いていた。

▶ 自由を求める代表者

第二次世界大戦後、ポーランドはソ連に監視されて言論や表現の自由も奪われていました。そこで、ワレサは自由を求める代表者として、「連帯」創設した。



日本とポーランドを結んだ友情の絆

▶ 1990年に大統領

「連帯」は様々な運動へと発展し、外国の共感を得ていきました。

1983年にノーベル平和賞を受賞。

1990年、ポーランドで初の自由選挙で大統領に就任。



1995年1月17日未明、日本で

知られざる親日国シリーズ
ポーランドの“恩返し”



- ▶ 阪神淡路大震災で被災した子供たちの心の傷をいやすため、ポーランド政府が自国に招待しました。



- ▶ 天皇皇后両陛下が訪問した際、元孤児が真っ先に駆け付けました。



- ▶ 日本人に助けられポーランドの孤児たちが80年の月日を経ても感謝の気持ちは忘れていませんでした。

ポーランド大統領夫妻主催の晩餐会で

- ▶ 天皇陛下は日本国民を代表してゼノ修道士への心からの感謝のお言葉を述べられました。
- ▶ 陛下のお気持ちが込められた感謝のお言葉はTV中継を通じて沢山のポーランドの人たちに伝わりました。

善意の架け橋～ポーランド魂とやまと心～

- ▶ 善意の心から生まれた両国の友情と信頼の絆は100年近くたちました。
- ▶ 純粹な善意から始まった両国の国交。
- ▶ シベリア孤児救済について報じた当時のポーランドの新聞には、日本について「礼節と誇りを大切にする民族」と言ってくれている。

「日本とポーランドの友好の歴史」
から平和のヒントを感じてきました。

日本とポーランドの友情の歴史から
平和な世界にするために大切なこと

歴史に学ぼう！
世界の平和と国際友好

御静聴有難うございました。

参考文献等

ぼやきくりっく (<http://kukkuri.jpn.org/boyakikukkuri2/log/eid1546.html>)

気ままな旅 (<http://blog.goo.ne.jp/kimama08/e/d515a29933db7b6fe1af8875e3f77c4c>)

聖書と祈りの旅、主よ、あなたが歩かれる道ならば

(<http://plaza.rakuten.co.jp/karanotede/diary/200804060001/>)

ウィキペディア (<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AC%E3%83%95%E3%83%BB%E3%83%B4%E3%82%A1%E3%82%A6%E3%82%A7%E3%83%B3%E3%82%B5>)